

## 令和3年度 第2回 村上市子ども・子育て会議 次第

日時：令和3年10月19日（火）

午後2時30分から

会場：村上市役所 大会議室（4階）

- 1 開 会
- 2 こども課長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 正副委員長の選出  
委員 長（                                  ）  
副委員長（                                  ）
- 5 正副委員長挨拶
- 6 会議の公開及び会議録に関する取扱いについて……………資料No. 1
- 7 村上市子ども・子育て会議について……………資料No. 2
- 8 議 事  
（1）子どもの生活に関する実態調査等について……………資料No. 3-1、3-2、3-3  
  
（2）第2期村上市子ども・子育て支援事業計画 令和2年度実績について……………資料No. 4
- 9 その他
- 10 次回の会議日程  
令和4年3月
- 11 閉 会

## 村上市子ども・子育て会議委員名簿

任期：令和3年8月28日～令和5年8月27日

(敬称略)

番号	氏名	号数	備考
1	遠藤 梢	1号委員 子どもの保護者	村上市岩船郡PTA協議会 理事
2	阿部 しほり		第一保育園 父母の会 会長
3	渡部 悠里		村上いずみ園父母の会 会長
4	平野 路子	2号委員 関係団体の推薦を受けた者	村上市社会教育委員 (兼村上市公民館運営審議会委員)
5	黒子 秀雄		村上市民生委員児童委員協議会連合会 理事
6	長 千恵子		村上市主任児童委員
7	加藤 英人	3号委員 子ども・子育て支援に関する事業に従事する者	NPO法人 おたすけさんぼく 理事長
8	富樫 恵子		医療法人 佐藤医院 あんず保育園 事務次長
9	小池 展子		NPO法人 村上ohanaネット 副理事長
10	工藤 いく子		フードバンクさんぼく 代表
11	齋藤 武		一般社団法人 Natural 児童発達支援所 はる 代表理事
12	本間 まゆみ	NPO法人 ここスタ 理事	
13	仙田 健	4号委員 子ども・子育て支援に関し学識経験のある者	村上市岩船郡中学校長会 会長 村上市立村上第一中学校長
14	松田 洋平		村上市岩船郡小学校長会 会長 村上市立村上小学校長
15	仲 真人		新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科准教授

アドバイザー	小池 由佳	新潟県立大学 人間生活学部 子ども学科 教授
	藤瀬 竜子	新潟青陵大学 福祉心理学部 社会福祉学科 准教授

事務局	信田 和子	保健医療課長
	木村 静子	福祉課長
	渡辺 律子	学校教育課長
	大滝 寿	生涯学習課長
	中村 豊昭	こども課長
	山田 昌実	こども課課長補佐 (子育て支援室長)
	高橋 朗	こども課課長補佐 (子育て政策室長)

会議の公開及び会議録に関する取扱いについて

1 会議の公開について

本委員会の会議は原則公開するものとする。

(市民参加による開かれた市政の推進を図るとともに、市政運営の公正の確保及び透明性の向上を図る。)

ただし、会議を公開することにより、公正かつ円滑な会議運営に著しく支障が生じると認められる場合は、会議を非公開とする。

2 会議の傍聴

会議を非公開とした場合を除き、可能な限り会場に傍聴席を設けるものとする。

3 会議資料の提供

会議を公開する場合は、当該会議において委員に配付した資料を傍聴人に提供し、又は閲覧に供するものとする。

4 会議録の作成

会議の公開と非公開とにかかわらず、当該会議終了後速やかに会議録を作成するものとする。

5 会議録及び会議資料の公表

非公開情報に該当すると認められる事項を除き、会議録及び会議資料は公表するものとする。

## 村上市子ども・子育て会議について

### 設置目的

村上市子ども・子育て会議は、子ども・子育て支援法第77条第1項の規定に基づき、村上市の子ども・子育て支援施策の推進を図るため設置されている会議体です。

### 所掌事務

- 1 保育園や認定こども園などの利用定員の設定に関して意見を述べること。
- 2 小規模保育施設や事業者内保育施設などの利用定員の設定に関して意見を述べること。
- 3 子ども・子育て支援事業計画の策定・変更に関して意見を述べること。
- 4 子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し必要な事項及び当該政策の実施状況を調査審議すること。
- 5 このほか、村上市の子ども・子育て支援施策に関し、市長が必要と認める事項について調査審議すること。

### 組織

会議は、委員15人以内で組織します。その委員は子どもの保護者や子ども・子育て支援に関する事業に従事する者や学識経験のある者などに市長から委嘱させていただいております。

### 子ども・子育て支援事業計画とは？

子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援法に基づく、幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、提供体制の確保の内容及びその時期などを定め、子育て支援事業に対するニーズに応じていくための体制づくりを円滑に進めていくための計画です。

村上市の現計画は令和2年度から令和6年度までの5か年の計画となっており、本年度が2年度目となっております。

個別事業の進捗状況について毎年度点検・評価を行い、市ホームページを活用し公表します。

### 子どもの貧困対策計画とは？

令和元年6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が改正され、子どもの現在及び将来がその生まれ育った環境に左右されることなく、全ての子どもに教育の機会均等が保障され夢や希望を持つことができるよう、児童権利条約の精神に則り、子どもの貧困対策を総合的に推進すること等が明記されました。あわせて、市町村に子どもの貧困対策に関する計画策定の努力義務が生じたことを踏まえ、村上市でも計画策定を行うこととしました。なお、計画の審議は、村上市子ども・子育て会議において審議を行っていただきます。会議委員の他、子どもの貧困対策に関する有識者2名をアドバイザーとしてお願いし、当該会議に対して意見や助言等をいただいております。

○ 子どもの生活に関する実態調査票と関係団体への実態調査票に対する委員要望等について

資料No.3-1

1. 子どもの生活に関する実態調査票

No.	調査票名	ページ	設問番号	意見種別	内 容	回 答
1	小1票	1	前文	要望	「しつもんについては、こたえなくてもだいじょうぶです。」→ 「こたえなくてもよいです。」 【小5票：P1前文 同様】 【中2票：P1前文 同様】 【16・17歳票：P1前文 同様】	アドバイザーのご意見により「よいです。」から修正した もの。より柔らかい言い方とするため、「だいじょう ぶです」のままをしたい。
2	小1票	1	前文	削除	前文6行のうち3行目「先生の～○を付けてください。」以降は 削除してもよい。 シンプルにしたほうが良い。 削除した部分は教師が説明する。	数件だが郵送配付がある。「先生のせつめいを・・・」は 削除し、郵送でも有効な説明に変更。 【対応】(3行目を)「こたえを えらんで、○をつけて ください。」
3	小1票	2	問7	要望	学校から直接学童に行き、おうちの人が学童に迎えに来て帰るの で、表記を工夫してほしい。	問7・8は、(少ないと想定されるものの)、放課後や休 みの日に、家でひとりで過ごす子どもの割合を知りたい もの。 【対応】「学校や学童保育所から」に修正
4	小1票	2	問7	疑問	下校後、家ではない所で過ごす子どももいる。この質問の意図は 何か。	※同上
5	小1票	2	問8	要望	学校が休みの場合でも、土曜日は学童保育に行く場合があるの で、表記を工夫してほしい。	※同上 【事務局】「学校や学童保育所が」に修正
6	小1票	2	問9	要望	「おうちのひとといっしょに、べんきょうをしますか。」という 設問ですが、プリントの宿題などは、学童で済ませることが多い と思います。 音読練習などは、お家ですることが多いと思いますが、二者択一 ではなく工夫してもらいたい。結果集計しにくいと思いき ますが。	自宅での学習において親や祖父母など大人との関わりが あるかを知りたい。保護者票でその状況を聞く設問があ るので、勉強に限らず「まいにち はなしをしますか」 とすることも考えられるが、問7、8と重複するため、 学習に絞った現状ままとしたい。学習内容によるケー ス分けまでは必要性が低いと考える。また、選択肢は原則 を2択としている。

No.	調査票名	ページ	設問番号	意見種別	内 容	回 答
7	小1票	3 4	問16 問17	疑問	朝食、夕食を家族でない人と食べる子どももいる。 この質問の意図は何か。 また、家族以外の人と食べていることを反映させるのであれば質問や答えに工夫が必要だと思う。	孤食の状況にあるかどうかを知りたい。「かぞくいがいの人」を選択肢として追加することも考えられるが、原則2択としたいため、選択肢を増やすことはしない。 「おうちの人」は、子どもに対して保護者を想定した表現、「かぞく」は、きょうだいなど大人ではない者も想定した表現。
8	小5票	3	問4	要望	「将来の夢や目標」を付けてはどうか。 【中2票P3問4同様】	つきたい職業、こういう人になりたいという目標、住みたいところなど、自分の将来のイメージや自分の将来に希望を持っているかどうかを「ゆめ」という言葉で表したものの。このままとしたい。
9	小5票	11	問29	疑問	Cの意味について、夜親がいないという場合と、夜子どもだけで遊んだという場合があるかもしれません。 【中2票P11問29同様】	ご指摘のようなことも考えられるが、夜遅くまで親がいない状況を想定している。親の不在を「子どもだけで過ごす」と表現したもの。
10	小5票	1	前文	追加	■8及び9 ・テープ「 <u>またはのり</u> 」を追加 (学校の教室では、のりを個人で持っているため) 【中2票：P1前文 同様】	テープ付の封筒を使用するため「テープ」のままとする。
11	小5票	2	問2	削除	身長・体重について自分で分からない児童が多数いると思われる。必要性が大きい位なら削除したほうが良い。 【中2票：P2問2 同様】 【16・17歳票：P8問2 1 同様】	子どもの肥満度を判定する設問。生活困難度が高い世帯ほど肥満の傾向があるため聞いておきたい。
12	小5票	7	問15	事務局修正	「G SNS (twitterやFacebookなど) や～」 →「G SNS (TwitterやLINEなど) や～」 【中2票：P7問15 同様】	小学生や中学生はFacebookを使うことは少ないのではないかと思われるため
13	小5票	8	問21	削除	虫歯の数について自分で分からない児童が多数いると思われる。必要性が大きい位なら削除したほうが良い。 【中2票：P8問21 同様】 【16・17歳票：P8問22 同様】	生活困難度が高い世帯ほどむし歯が多い傾向がみられるため聞いておきたい。

No.	調査票名	ページ	設問番号	意見種別	内 容	回 答
14	小5票	9	問22	疑問	A～Eの分類についてAだけまとまっているB～Eが個別なのは【中2票P9問22同様】	学校生活を楽しみとするものの割合を知りたい。技術科目はそれを楽しみとする回答が多い事例もあり、学校以外での活動や過ごし方を検討していく参考にもなると考える。生活困難度と相関関係があるとの調査結果もある。
15	小5票	10	問26 問27	要望	学習塾の定義について説明があるとよい。【中2票：P10問26・27 同様】	「学習塾とは、主に教室での授業を中心とした学習指導を行い、小学生、中学生及び高校生を対象として予習、補習及び進学指導を行う教育施設のこと」（社）全国学習塾協会 自主基準から抜粋）。【対応】注釈「学習塾：学校以外の場所で、勉強を教えてもらう施設のこと」を加える。
16	小5票	全部		要望	未習漢字にルビがあるとよい【中2票 同様】	対応する。
17	小5票	全部		要望	「全員におききます。」→「全員にお伺いします。」（前置きされているところとそうでないところがある。なくても答えを進めていくことができるのではないか。）【全児童生徒用・全保護者票 同様】	子ども票では謙譲語ではなく「全員におききます」としている。絞り込み・条件分岐の設問（問〇で××と答えた人が対象）の後で、全員が対象となる設問に戻る箇所に入れている。絞り込みの後で、対象者だけなのか、全員か回答する必要がある設問なのかを明示し、判断に迷わないようにするため、必要な箇所に記載している。
18	小1保護者票	3 4	問9-2 問10-2	疑問	問27でも質問しているのに細かいことを聞くのか。【小5保護者票：P3問9-2・P4問10-2 同様】 【中2保護者票：P3問9-2・P4問10-2 同様】 【16・17歳保護者票：P4問10-2・P5問11-2 同様】	問27で回答がなかった場合や「収入はない」と回答された場合の補正のために聞いている。生活困難度判定の際に判定不能となる可能性を減らすためのもの。
19	小1保護者票	10	問25-2 問25-3	事務局修正	問25-2と問25-3を入れ替え【中2保護者票：P8問17-2・問17-3 同様】	入学前支給についてのご意見は、利用の有無に関わらず回答いただきたいため

No.	調査票名	ページ	設問番号	意見種別	内 容	回 答
20	小1保護者票	13	問34	要望	<p>家庭での親子でする体験の設問ですが、「A海水浴に行く」は、「釣り・登山」も入れたほうがいいと思います。</p> <p>また、「キャンプやバーベキューに行く」ではなく、「・・・をする」のほうがいいと思います。</p> <p>「F地域のまち協や公民館や子ども会の事業に参加する」  「G農作業や家庭菜園他家事手伝い」  「Hスポーツ少年団や習い事等」  以上3項目を追加してほしい。</p> <p>【小5保護者票：P9問22 同様】  【中2保護者票：P9問22 同様】  【16・17歳保護者票：P11問24 同様】</p>	<p>【対応】「海水浴・釣り・登山などに行く。」に修正「キャンプやバーベキュー」は修正しない。</p> <p>ご指摘のF～Hは地域活動になり、経済的な理由でできないとの回答は少ないのではないかと。また「Hのスポーツ少年団や習い事等」は小1の例では問39「C習い事」と重複する部分もある。</p> <p>生活困難度判定の剥奪指標になり得ないと思うので、追加しない。</p>
21	小1保護者票	16 17	問41 問42	疑問	<p>親の学歴を聞く必要があるのでしょうか。</p> <p>【小5保護者票：P12問29・P13問30 同様】  【中2保護者票：P12問29・P13問30 同様】  【16・17歳保護者票：P13問31・P13問32 同様】</p>	<p>親の最終学歴が子どもへの教育期待（子どもが将来獲得する学歴に関する子ども本人と保護者の希望や期待）にも影響を及ぼすという調査結果もあるため、その状況を把握したい。教育期待については、子どもと保護者の教育期待の両方を調査すべきであるとの有識者資料もあり、そのようにしている。</p>
22	小1保護者票	19	問47	追加	<p>「相談にのってくれる人だれですか。」→「相談にのってくれる人はだれですか。」</p> <p>【小5保護者票：P15問35 同様】  【中2保護者票：P15問35 同様】  【16・17歳保護者票：P15問37 同様】</p>	<p>修正する</p>
23	小1保護者票	全部		疑問	<p>★の質問について何か意味があるのか。</p> <p>【全児童生徒用・全保護者票 同様】</p>	<p>調査項目を検討いただくにあたり、生活困難度分類に必須の項目に★で目印をつけたもの。最終的には★は削除する。意見募集の際のご説明不足をお詫びします。</p>
24	16・17歳保護者票	8	問18	事務局修正	<p>問18前に誘導文を追加</p>	<p>高等学校等就学支援金や奨学金についての設問のため、高校に在籍中か在籍したことがある方に限定した。</p>
25	その他	全部		事務局修正	<p>行間やインデント等のレイアウトの修正</p>	



○ 子どもの生活に関する実態調査票と関係団体等への実態調査票に対する委員要望等について

2. 関係団体等への実態調査票

資料No.3-1

No.	調査票名	ページ	設問番号	意見種別	内 容	回 答
1	関係団体	1	前文	要望	「補完的なインタビュー」→「補完的な聞き取り」 (インタビューでは違和感がある。)	【対応】「補完的な聞き取り」に修正する。※ 学校・福祉も同様。

## (●) アンケート調査による生活困難度分類について

### ①保護者データと児童生徒データの関連付け

児童生徒向け調査票と、それぞれその保護者向け調査票との関連付けを行うため、対となるコード番号を双方にナンバリングしてから配付する(学校を通じての配付回収、郵送配付回収とも)。

### ②生活困難の度合いを分類する方法

国の「子どもの貧困率」算定における等価可処分所得という収入指標だけでなく、「①低所得＝収入指標」、「②家計の逼迫＝困窮指標」、「③子どもの体験や所有物の欠如＝剥奪指標」の3つの指標・視点から、村上市における子どもの貧困の状況を分析する。

多くの自治体調査において行われている手法であり、新潟県の「令和元年度 新潟県子どもの生活実態調査」でも近似の方法で「困窮層」「周辺層」「一般層」の分類を行っている。

#### ○3つの指標

#### ① 低所得

世帯所得(勤労収入、事業収入等+社会保障給付)を、世帯人数の平方根で割った値(=等価世帯所得)が、厚生労働省調査での基準より低い世帯。

#### ② 家計の逼迫

家計の中で大きな比重を占め、欠乏により基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用が捻出できない状況。過去1年間に経済的な理由で料金滞納があったかなどを訊ねる7項目のうち、1つ以上に該当した場合「家計の逼迫」があると定義する。

#### ③ 子どもの体験や所有物の欠如

世帯全体の生活困難を表す①と②に対し、子ども自身の生活困難を表す指標として用いる。経験や物品(全15項目)が、経済的理由のために世帯にないかどうかを訊ね、3つ以上が該当している場合「子どもの体験や所有物の欠如」の状態があると定義する。

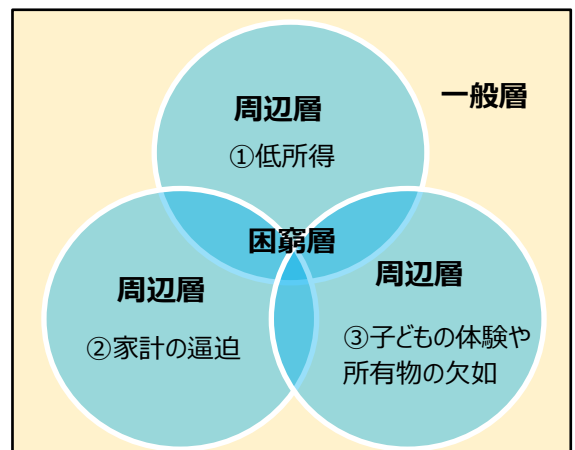
○生活困難の分類

前述の3つの指標の下記の要素に基づいて、生活困難の度合いを3段階に分類する。

① 低所得	③ 子どもの体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「令和元年*国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯 *令和2年の調査は、新型コロナウイルス感染症の対応等により中止となったため、令和元年の数値を使用する</p> <p>&lt;低所得基準&gt; 世帯所得の中央値 437 万円 ÷ √平均世帯人数(2.39 人) × 50% = 141.3 万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する次の15項目のうち、<u>経済的な理由</u>で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 海水浴に行く</li> <li>2 博物館・科学館・美術館などに行く</li> <li>3 キャンプやバーベキューに行く</li> <li>4 スポーツ観戦や劇場(映画館を含む)に行く</li> <li>5 遊園地やテーマパークに行く*</li> <li>6 毎月お小遣いを渡す</li> <li>7 毎年新しい洋服・靴を買う</li> <li>8 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる</li> <li>9 学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう)</li> <li>10 お誕生日のお祝いをする</li> <li>11 1年に1回くらい家族旅行に行く</li> <li>12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる</li> <li>13 子どもの年齢に合った本</li> <li>14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ</li> <li>15 子どもが自宅で宿題(勉強)をすることができる場所 *16-17歳は「友人と遊びに出かけるお金」</li> </ol>
② 家計の逼迫	
<p><u>経済的な理由</u>で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 電話料金</li> <li>2 電気料金</li> <li>3 ガス料金</li> <li>4 水道料金</li> <li>5 家賃</li> <li>6 家族が必要とする食料が買えなかった</li> <li>7 家族が必要とする衣類が買えなかった</li> </ol>	

生活困難層	困窮層 + 周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

生活困難の度合いにより、家庭や子どもに「何が起きているか」「何が求められているか」に着目して分析する。



## 村上市子どもの生活に関する実態調査の流れ

### 【小中学校を通して配布・回収】

市立小中学校に通う小学1・5年生、中学2年生  
の児童生徒とその保護者

こども課子育て政策室

学校教育課又は各教育事務所

市立小中学校

子ども用調査票は学校で記入・回収  
保護者用調査票は子どもに持ち帰ってもらい、  
自宅で記入し回答を学校で回収

配布・回収用封筒

子ども用調査票

保護者用  
調査票

子ども用  
封筒

学校教育課又は各教育事務所

こども課子育て政策室

### 【郵送にて配布・回収】

市立以外の小中学校に在籍する小学1・5年、中学2年生、  
16歳又は17歳（高2相当）の児童とその保護者

対象者住所へ  
発送

郵送用封筒

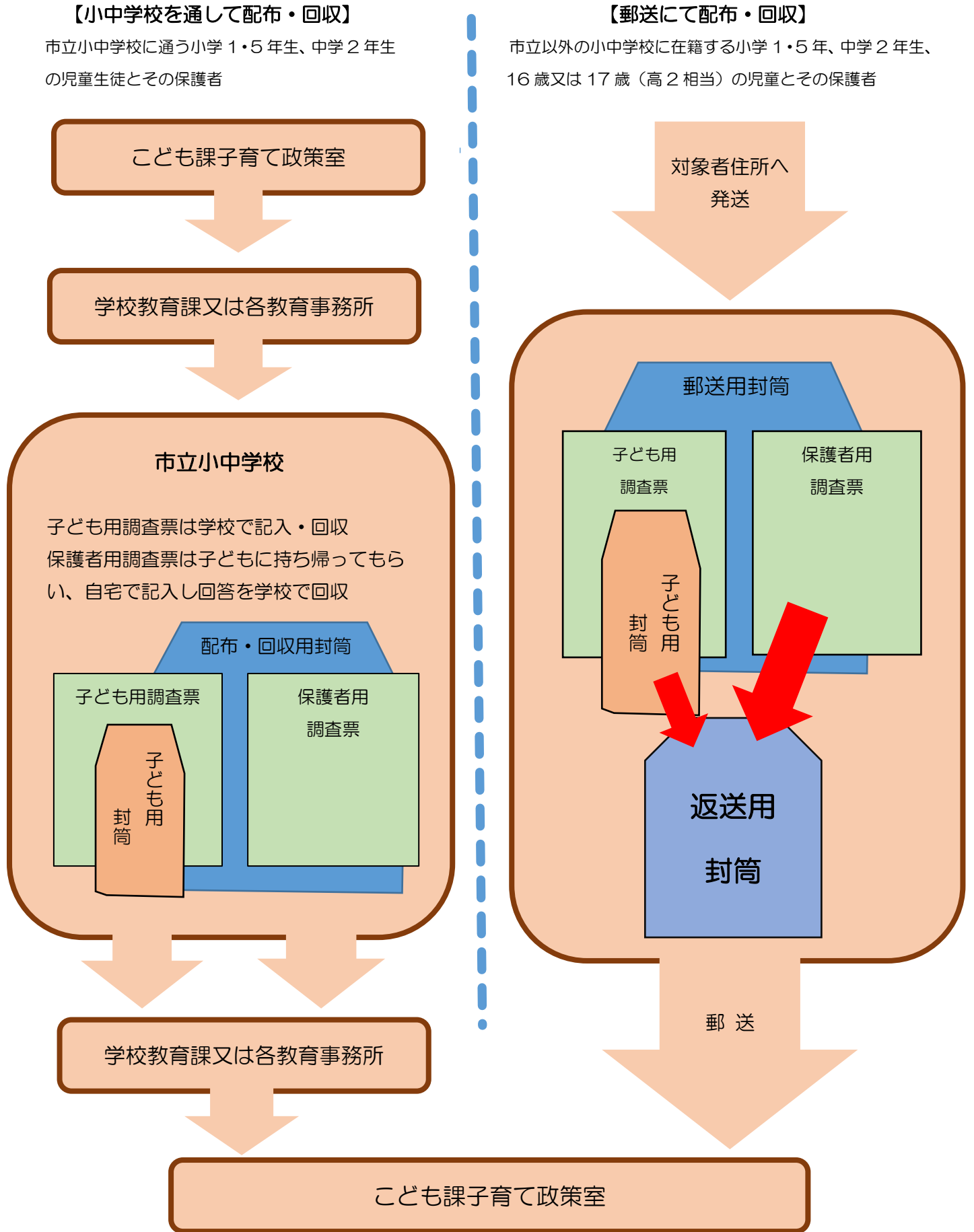
子ども用  
調査票

保護者用  
調査票

子ども用  
封筒

返送用  
封筒

郵送



### 関係団体調査先

No.	種別	団体名
1	子ども食堂	にこにこ食堂
2	子ども食堂	おなかいっぱい絆（キッズ）なサロンプロジェクト
3	フードバンク	フードバンクむらかみ
4	フードバンク	フードバンクさんぽく
5	社会福祉協議会	地域福祉課
6	社会福祉協議会	生活支援課
7	家庭教育支援チーム	NPO法人 ohanaネット
8	家庭教育支援チーム	NPO法人 おたすけさんぽく
9	家庭教育支援チーム	NPO法人 ここスタ
10	家庭教育支援チーム	フリースクール水野谷塾
11	家庭教育支援チーム	ふくちゃ部
12	家庭教育支援チーム	おひさま

### 学校関係者・福祉関係者等調査先

No.	種別	団体名
1	養護教諭（計20名）	市立小学校（13校）
		市立中学校（7校）
		村上特別支援学校（2名）
		村上中等教育学校（1名）
		市内公立高校（村高、村上桜ヶ丘、荒川）
2	スクールカウンセラー	遠山SC（一中、東中学校区）
		高橋SC（岩船中、山北中、朝日中学校区）
		佐藤SC（荒川中学校区）
		横山SC（神林中学校区）
3	スクールソーシャルワーカー	2名（小中学校）、県立
4	幼稚園教諭・保育士（21名）	公立保育園（14園）
		認定こども園 村上いずみ園
		私立幼稚園 村上幼稚園
		地域型保育型施設（3園） ゆりかご・マイマイ・きらら
		地域型保育事業施設 あんず保育園
企業主導型保育園 さんさん保育園		
5	主任児童委員（12名）	荒川地区（2名）
		神林地区（1名）
		村上地区（5名）
		朝日地区（2名）
		山北地区（2名）
6	保健師（24名）	荒川地区（4名）
		神林地区（3名）
		村上地区（9名）
		朝日地区（5名）
		山北地区（3名）
7	生活保護CW（6名）	
8	家庭相談員（2名）	
9	子育て世代包括支援センター（2名）	
10	総合相談係（3名）	
11	適応指導教室 指導員（5名）	

- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（小学校1年生用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（小学校1年生保護者用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（小学校5年生用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（小学校5年生保護者用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（中学校2年生用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（中学校2年生保護者用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（16～17歳用） 1部
- ・ 村上市子どもの生活に関する実態調査（16～17歳保護者用） 1部
- ・ 村上市子どもの貧困対策計画（仮称）に関する実態調査（関係団体等） 1部
- ・ 村上市子どもの貧困対策計画（仮称）に関する実態調査（学校・福祉関係者等） 1部

※ 委員の意見を基に修正した箇所を  で表示しています。